

ROTOBO

Connecting Markets

## ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)4月5日号 No.1954

## 目次

|                            |   |
|----------------------------|---|
| ■ 2023年のロシア港湾の貨物量 .....    | 1 |
| ■ キーパーソン .....             | 8 |
| カザフスタン:水害対策で副首相を任命/8       |   |
| ■ トピックス .....              | 9 |
| ガスプロム、シェル保有のサハリン2の権益獲得/9   |   |
| エー・アール・シー、モンゴル3高専と産学連携協定/9 |   |
| アークティクLNG2、生産停止/10         |   |
| 日本、対ロ制裁を拡大/10              |   |

## 2023年のロシア港湾の貨物量

## 解説

ロシア港湾の取扱貨物量の2023年の実績を入手したので、本号では、早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間のロシア港湾の取扱貨物量は、8億8,592万tと、前年と比べ5.2%の増加となった。このうち、ドライカーゴは4億4,689万tと、前年と比べ10.4%の増加となった。一方、液体カーゴは4億3,904万tと、前年と比べ0.5%の増加となった。

取扱貨物量は2000年には1億8,230万tだったが、コロナ感染拡大で経済活動が一時ストップした2020年を除いて一貫して増え続け、4.9倍に拡大した。戦争と制裁下という状況でも成長を続けている。2022年はロシアの軍事侵攻と西側諸国の制裁の影響で、輸出が停止したり、船が寄港しなくなったりするなど予想もしなかった事態に翻弄されたが、2023年はその影響が緩和され、落ち着きを取り戻した1年だった。西側諸国から中国やインド、トルコなど「グローバル・サウス」と呼ばれ欧米と一線を画す新興国や途上国へのパートナー変更が進んだことで、昨年1年間の貨物取扱量は前年より4,000万t以上多く、率にして5%余りと、2018年以来の高い伸びとなった。2023年の動きを振り返ると、西側諸国との関係を断ち切り、新しい現実に対応すべく、中国やトルコなどの国々との関係強化が加速した。数字を見る限り、ロシアは短期間で転換を図ることに成功した。肥料や穀物など2ヶタの伸びとなった商品もあり、ロシアの復活ぶりを印象づけた。

どんな貨物を運んでいるのか。ドライカーゴでは、鉄鋼が前年より12.8%減って2,133万t、鉱石が23.0%減って975万t、非鉄金属が16.0%減って324万t、木材が28.2%減って229万tなどとなっている。一方、コンテナが前年より10.5%増えて5,010万t、肥料が51.8%増えて3,672万t、穀物が